

- コラム●40周年記念パネルディスカッション●女性部経営の実践セミナー
●岡山北支部&障害者問題委員会の合同例会●青年経営者全国交流会

COM

vol. 448

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS8 働きがいも
経済成長も9 産業と技術革新の
振興をつくろう11 住み続けられる
まちづくりを

OKAYAMA DOYOU
NEWS PAPER!



パネリスト

(公財) 操風会岡山旭東病院 総院長 土井 章弘 氏[1987年入会]
(岡山同友会 常任相談役)
設立: 1983年 職員数: 501人
事業内容: 医療と教育を担う脳神経・運動器専門総合病院
所在地: 岡山市中区倉田567-1



株フジタ地質 取締役会長 藤田 賢治 氏[1991年入会]
(岡山同友会 顧問)
設立: 1977年 社員数: 31人
事業内容: 土と基礎のコンサルタント
所在地: 岡山市中区雄町425-1



株ジョア 会長 神馬 孝司 氏[1992年入会]
(岡山同友会 顧問)
設立: 1989年 社員数: 45人
事業内容: 女性用しごと服と、その関連商品の企画製造販売
所在地: 岡山市南区内尾288-14



株マスカット薬局 代表取締役 高橋 正志 氏[2006年入会]
(岡山同友会 顧問)
設立: 1998年 社員数: 97人
事業内容: 薬局、保険調剤、一般用医薬品販売
所在地: 岡山市北区田益1290-1



コーディネーター

NPOエリア・イノベーション 代表 藤井 智晴 氏[2010年入会]
(岡山同友会 理事・広報委員長)
設立: 2010年
事業内容: インターンを活かした事業創出と人材・組織の成長支援



岡山県中小企業家同友会

創立四十周年記念パネルディスカッション

二〇二五年十一月二十八日 於II同友会会議室

同友会活動の意義と経営者の学び

—そして次世代へのメッセージ

岡山同友会四十周年を記念し、顧問・相談役の皆さんに心に残っているエピソードなどをお話しいただきました。これから活躍が期待される役員や会員の皆さんに期待を込めて、思いを未来へつなぐ特集記事として掲載します。

点滴穿石

新年の澄み渡るような朝が来た。新年は、前年にやり残したことすら一旦スタートラインに戻し、再出発の勇気を与える特別な節目だ

▼一年前に事業承継を終えた今、経営環境や将来ビジョンをまっさらな心で見つめ直し、青空へ突き抜けるような気概を覚えている。経営者になったばかりの年に経験した倒産危機、あの時に同友会と出会わなければ今の社員笑顔は無かった。経営指針成文化研修会の初日、自分では気づけなかった盲点をズバリと指摘されて以来、「社員を守る経営者になろう」と心に誓い、問い続け、汗を流してきた。「誰のために、何のために」を繰り返し問い、道を切り開き、社員と共に現在の財務体質を築いた▼経営指針の実践が社風として定着するまでに十年、社員の能動性が芽吹くにはさらに十年かかる。経営者と社員が同じ目線に立ってやりたい姿に向かう歩みは、年が明けて再び続いていく。

(十三)



藤田 賢治 氏

●入会のきっかけ

(敬称略)
藤井Ⅱ最初のテーマは「入会のきっかけ」です。藤田さんは入会にあたりどのような経営課題を学ぼうと考えていましたか？

藤田Ⅱ社員が十人を超えた頃から、自分一人では会社を回せなくなり、社内外でさまざまな問題が生じました。経営の勉強の必要性を感じ始めていた時、同級生の岩田富士夫君(株インパム取締役会長)に誘われたことをきっかけに入会しました。経営課題に向き合えるのではと期待して、同友会で学び始めました。

高橋Ⅱ私は創業後七年ほどで経営が行き詰まった時期がありました。ちょうどその頃、他の経営者との勉強会で知り合った方々から「中小企業家同友会という、経営を学べる場がある」と教えられ、思い切って例会に参加しました。そこで、経営指針を成文化して業績を向上させたという話を聞き、当時の自社に欠けていたのは長期ビジョンや事業計画だと痛感しました。「ここで学ぼう」と決意し、入会したので。初めて参加した例会では土井さんから「ようこそ同友会病院へ。ここは病んでいる経営者を治療するところです。一

刻も速く治療してよい会社になりましょう」と声をかけられました。その言葉に背中を押されて、入会後すぐに経営指針の成文化に取り組みました。

土井Ⅱ香川で勤務医をしていた時、たまたま同友会主催の教育講演会に参加したことが縁となりました。当初は経営者でなければ会員になれないとのこととで入会できませんでしたが、融通してもらい、二年間ほど案内を送ってもらっていました。八七年、岡山で父の病院を継ぎ本格的に経営に携わる立場となったことで、「同友会にぜひ入りたい」と事務局に連絡し、岡山同友会の事務局長(当時)だった磨田俊司さんの尽力により入会しました。臨床一辺倒だった自分に経営の基礎を教えてくれる場として、同友会はまさに渡りに船でした。入会直後から経営指針成文化の勉強会に参加し、二年後には自らの経営指針書を初めて策定しました。同友会に入っすぐ、先輩方に教わりながら必死に経営理念を書き上げました。

神馬Ⅱ創業後は順調でしたが、「このままで良いのか」と迷い、経営を学びたいと思うようになりました。銀行主催の集まりにも参加しましたが、飲み会中心で物足りず、そんな時に経営コンサルタントの額田信一さんと出会い、経営指針づくりセミナーへ参加しました。その最終日に「同友会という経営者の会合がある」と誘われ入会しました。創業六年目、初めて例会に参加した際、先輩方が堂々と自分の考えを語る姿に衝撃を受けました。正直「つい



神馬 孝司 氏

●印象的な体験や転機について

藤井Ⅱ同友会に入って本当に良かったと実感した出来事や、自身の経営観が変わるきっかけとなった経験は何でしたか？

高橋Ⅱやはり人生を動かすのは人との出会いです。入会間もない頃、土井さんから障害者問題委員会の初代委員長を打診され、荷が重いのと思いつつも引き受けたことが大きな転機となりました。その活動を通じて中小企業家同友会全国協議会(略称中同協。同友会の全国組織)の会長も務めた赤石義博さんと出会い、「自主・民主・共生の理念こそ経営の根幹」との言葉に経営観、人生観が大きく変わりました。また、経営指針書づくりで行き詰まった際、土井さんから「指針書を交換しよう」と提案され、病院の詳細な指針書を参考にしたことで自社の指針が飛躍的に充実しました。あのご厚意には今も感謝しています。学ぶ機会は決して断ってはいけなさと痛感しました。

藤井Ⅱ土井さんはいかがでしたでしょうか？
土井Ⅱ印象的な体験は数え切れませんが、中でも大田堯先生との出会いは、私の経営観・人生観を大きく変えました。大田先生は日本教育学会の会長も務められた方ですが、「生命の尊さ、生命の不思議」を学びました。「生命は一人ひとり違うが、互いに助け合わねばならない」「生命は変わっていくものだ」との教えは、人間も成長し変化していくべきだと示してくれました。この学びが私の生き方の軸となり、忙しさに流されそうな時も成長を支えてくれました。同友会での多くの出会いの中でも、先生との出会いは格別でした。



土井 章弘 氏

神馬Ⅱ同友会は経営者の生き様を学ぶ場です。他の経営者仲間との集まりは儲け話を中心でしたが、同友会の例会では人生や人間性に正面から向き合う議論があり、学生時代に仲間と語り合った頃を思い出しました。全国行事にも参加し、北海道同友会の大久保尚孝さんや中同協歴代会長の熱い報告に触れ、「自分も負けられない」と奮い立ちました。尊敬する経営者との出会いこそ、私にとって最大の財産です。

藤田Ⅱ入会直後から幹事や委員を任せられ、仲間ができたことが大きな経験でした。特に滋賀同友会への派遣研修で

は、経営について本音で議論し合う姿に触れ、同友会の真剣な学びの文化に衝撃を受けました。あの体験を機に同友会活動への向き合い方が変わり、経営指針成文化セミナーの形態も変わりました。他県との交流や合同例会にも広がりました。自分ひとりでは得られない体験を重ね、本当に入会して良かったと感じています。

●経営への影響

藤井Ⅱ続いて、同友会活動を通じて得たものが会社経営に与えた影響についてお話しください。

土井Ⅱ同友会の基本理念は「共に育つ」ことです。病院経営にもこの考えを取り入れ、職員同士が教え合い助け合う社風を広めてきました。私は院長ですが一匹のメダカ（メダカの学校）にすぎず、皆が自主的に議論し、民主的に問題を解決してくれます。毎年の経営指針書にも全員が関わり、検証・改善を重ねています。こうした企業文化を育めたのは、同友会での学びのおかげです。

神馬Ⅱ私も同友会で学んだ一番大事なことは「共に育つ」という発想でした。私は自社工場を持たず協力工場に依存していますが、同友会に入ってから「下請け」ではなく「パートナー」と呼び、財務状況も共有し助け合う関係を築きました。経営が厳しい時には単価を見直すなど配慮し、一緒に社員旅行に行くほどの信頼関係となり、長年連携を続けられています。社内にも「共に育つ」風土を根付かせるため、社員共育大学に社員と共に参加し、学びを持ち帰っ



高橋 正志 氏

て話し合う場を設けました。その積み重ねが社風の確立につながり、私が社長を務めた期間は本当に良い経営ができたと自負しています。

藤田Ⅱ滋賀での体験以降、社員との関わり方が大きく変わり、人間尊重の経営を本気で推進するようになりました。「社員に会社を好きになってもいい」「誇りを持って働いてもらいたい」との思いから、経営情報の開示や理念・指針の充実に取り組みました。同友会に入会後、初めて新卒採用に挑戦し、九六年入社の人々のうち一人は現在の社長に成長しました。当時社員二十人規模で不安もありましたが、若い人材を採り育てたことで組織に活力が生まれました。現在は社員の七割が新卒採用者です。経営指針書は言わば会社の取扱説明書。これを全社員で共有できたのも、同友会で学んだからこそです。

高橋Ⅱ医療・薬局業界は厳しい環境ですが、当社が良い業績を維持できているのは、十六年間にわたり毎年欠かさず経営指針書を作成・発表し、PDCAを回し続けてきた成果です。課題を洗い出し事業計画に反映する、この地道な継続こそ大切だと学びました。今、

中同協の障害者問題委員長を拝命していますが、全国の仲間と活動する中で「人を生かす経営」の重要性を痛感しました。先日行われた障害者問題全国交流会では、「人・もの・力ネ」の中で今は断固「人」が第一」と議論され、困っている人に手を差し伸べ共生社会を築くことの意義を実感しました。

当社の理念は「命ある企業」。社員一人ひとりを細胞や臓器に見立て、互いに血液を送り合い合う組織像を描いています。赤石さんの数々の著書にもあるように「人は生かされている」ことを経営者が自覚すれば会社は必ず良くなる。理念をブレずに実践してきたからこそ、社員が一丸となり厳しい環境でも踏ん張れているのです。

●次世代へのメッセージ

藤井Ⅱ最後に、同友会の次世代会員やこれから入会する若手経営者に伝えたいことは何でしょうか？

土井Ⅱ若い経営者には、ぜひ同友会に入って学んでほしいと思います。やがて退会する人もいますが、そこで得た学びが社会に活かされるなら、それも同友会の役割です。同友会は人づくりの出発点を提供する場なのです。会員数は現在約五百五十人ですが、将来二



藤井 智晴 氏

千人、三千人と増えるに越したことはありません。ただ重要なのは数ではなく「きっかけを作る」こと自体が社会への貢献だという点です。一人でも多くの若手に門を叩いてほしいし、私たちも次世代を歓迎し支えていきたい。

そして中小企業は平和な社会でのみ繁栄できます。世界では紛争が続いていますが、戦火の下では医療も福祉も企業経営も成り立ちません。何より平和が大切であることを次世代に伝えたい。平和なくして同友会理念の実践はあり得ず、このことはこれからの時代ますます重要になるでしょう。

神馬Ⅱ私が伝えたいことは二つあります。一つ目は「人と人とのつながりの大切さ」です。同友会は自主・民主・連帯の理念のもと、人間尊重の経営を追求しています。オンライン化が進む時代ですが、経営者は人との交わりの中でしか学べないことがあります。辛い時は仲間に相談し、直接語り合うことの大切さを次世代に伝えたい。実際、六十代後半以上の有志による「シニア部会」をつくり、三力月に一度集まって盛り上がりつつあります。年齢とは関係なく自社と自分に責任を持ち、後輩に伝えられることを伝え、一緒に学びたいという思いで活動しています。世代を超えて学び合えるのも同友会の魅力です。

二つ目は「科学的視点を忘れないこと」です。同友会は人間性や社会性を重視しますが、同時に科学性も

欠かせません。論理的に物事を捉え、財務やマーケティングを学ばずして良い会社づくりはできません。次世代の皆さんには理念とともに科学的手法も貪欲に学び、「良い会社・良い経営者」を目指すため、人間性・社会性と科学性のバランスを常に大事にしてほしいと思います。

藤田Ⅱ同友会は「経営哲学を学ぶ学校」と言われ、十年、二十年と腰を据えて学ぶ場です。滋賀同友会の先輩から「同友会は農業のようなもの。学び続け種を蒔けば必ず芽が出る」と教えられました。まさにその通りで、焦らず地道に学び続けてほしいと思います。学んだら実践し、また学ぶ——その繰り返しで経営は良くなります。労使見解に基づく人間尊重の経営を継承し、「人を生かす」会社を築いてください。一人ひとりの持ち味を活かし、社員が幸せに働き、かけがえのない人生を全うできるよう支援することが経営者の務めです。同友会で学んで実践すれば必ずそれが実現できます。次世代の皆さんには、我々の築いた伝統を受け継ぎ、さらに発展させてもらいたいと思います。

らく」と記されています。過去を学ばずして新しい未来は創れない——まさにその通りです。去年は戦後八十年、「労使見解」五十年という節目の年でした。「労使見解」を作成した先輩方は戦争を経験し、「中小企業は平和な社会でのみ繁栄できる」と提言しました。終戦直後の経営環境は厳しく、労使紛争により命を絶った経営者の話も残っています。それでも先人たちは自主・民主・連帯の理念を掲げ、決してブレずに活動を続けました。今の時代は恵まれています。だからこそ私たちは先人の築いた理念に誇りと自信を持ち、地域の課題解決にも取り組む同友会運動を続けなければなりません。若い世代の皆さんには、歴史と理念をしつかり学び、自信と誇りを持って未来を創ってほしいと願っています。

この後、「四十周年を迎えた今、私たちは何を守り、何を進化させ、

何を次代へ手渡すのか？」を討議の柱に据え、グループ討論を行いました。発表では、「経営者の『生き様』を理念に重ね、本気で考える姿勢が今は薄れている。だからこそ同友会の歴史を学び直し、厳しい時代に助け合った精神を理解し、次世代へ繋ぐことが必要。学びの場を守り進化させ、より良い方向へ築き上げていく」と、つい答えを急ぎがちだが、本来の学びは答えを探し続ける過程にある。その中で様々な価値観を持つ仲間と本気で語り合い、自己開示し、理念を共有する仲間と助け合うことが同友会の醍醐味だ。守るべき理念を軸に、新しい価値観を引き出す議論の場を整え、青年経営者を



増やして思いを次世代に手渡していく必要がある。人が育つには人との対話が不可欠であり、そこから新しいアイデアも生まれる。中小企業経営の楽しさや社会的影響力を社員や学生に伝え、成果を上げて事業を発展させることで、その言葉に説得力を持たせることが経営者の責任。理念や事業承継を語り続け、次の四十年へ維持・発展させていかなければならないと決意した」との意見が交流されました。(S)

紙面に掲載できなかった内容がWEBでご覧になれます。



謹賀新年



旧年中は大変お世話になりました。
今年度もご愛顧のほど
よろしくお願い申し上げます。

印刷・企画デザイン ホームページ制作 写真・動画撮影 アプリ制作

この他にも右下の二次元コードから様々な制作実績をご覧いただけます。



サンコー印刷株式会社
Aiming for the future together with

〒719-1137 岡山県総社市駅南 1-1-5

TEL 0866-93-2121 (サンコー印刷)

制作
実績▶





女性部「経営の『理念』と『数字』を繋ぐ実践セミナー」

想いを形に、数字で確かめる経営へ

十一月十九日に初回を迎えた女性部の「経営の『理念』と『数字』を繋ぐ実践セミナー」に十五人が参加し、経営にまつわる数字の見方を学びました。このセミナーは岡山県信用保証協会の業務統括部創業・経営支援統括課の松井大典課長代理を講師に招いて開催しています。経営指針を実践に結びつけたい経営者向けに、三回連続講座を企画しました。

第一回では、自社のお金の流れを正しく把握するために、資金の流れを「お風呂の湯の出し入れ」に例えて解説。会計上は黒字でも手元資金が不足する事態を避けるため、経常運転資金と借入金

のバランスを注視する必要性が強調されました。松井氏からは「利益より資金を残す経営を目指す」と呼びかけがあり、そのために資金繰り表やキャッシュフロー計算書の活用が提案されました。続いて、架空の金属加工業の経営者を想定し、新規受注を検討するワークを

実施しました。設備更新の初期投資や、三百万円分の原材料保有、月末締め翌月払い——といった条件が提示され、各自で損益計算書と資金繰り表を作成しました。解説を受けた後、グループで受注するか否かの結論とその理由を共有し、意思決定の視点を学びました。

最後に松井氏は「数字が鳴らすアラートに気づけるかどうかは経営者次第」と指摘。そのためには、自己資本比率などの指標や資金繰り表、キャッシュフロー計算書を用い、資金の入りと出のバランスを早めに把握し、対策を講じる必要があることを説明しました。次回は行動計画の立案ポイントを学び、三月の最終回までに実際に行動へ移した成果を報告する予定です。

(S)



松井 大典 氏

人を生かす経営で 社員が活躍できる会社に！

岡山北支部&障害者問題委員会合同十一月例会

十一月十七日、(株)Life Capsule Factoryの本郷理英子社長の報告で、岡山北支部と障害者問題委員会の合同例会を開催しました。参加者は三十四人

でした。本郷氏は、同友会の女子大学に参加したことをきっかけに入会しました。コロナ禍で経営が厳しくなったことを契機に、経営指針成文化研修会を受講し、起業当初の思いに立ち返ることができました。多店舗展開で会社を大きくすることができていた自分をみつめ直し、お客様だけではなく、スタッフや

地域の方々とのつながりを大切にするようになりました。

外部環境に左右されない組織について本郷氏は、「馴れ合いのない優しさ」と責め心のない厳しさ」と話します。参加した障害者問題全国交流会で聞いた、「どんな人でも活躍できる会社づくりは、どんな人でも活躍できる社会づくり」という言葉に深く感銘を受けました。そして、本当の意味での「人を生かす経営」を学べるのが同友会であると気づきました。

その後、『人を生かす経営』の冊子を繰り返し読み返し、労使見解を自社に当てはめて考え続けました。「いかなる困難な状況でも他に責任を転嫁せず、決して諦めない」——その姿勢を胸に、社員と徹底的に向き合いながら新規部門の立ち上げや十年ビジョンの策定に取り組み、一人ひとりが活躍できる組織づくりを目指しました。

経営の原点に立ち返り、実践しては見直す。その繰り返しの中で、常に「人を生かす経営」の根本に立ち戻る姿勢が感じられる報告となりました。

(株)FIL DESIGN 高橋 京恵



守・破・離 未来を背負いし経営者よ 讃岐の地で心に刻め



二日目の基調講演では、「自分の為から人と地域の為の経営へ」と題して、(株)ウエストフードブランドニングの小西啓介社長（香川同友会代表理事）が登壇。多店舗展開の失敗や海外出店の挫折を経験し、そこから得た教訓を事業ドメインの再定義や挑戦できる環境づくりなどに活かし、事業を発展させてきた二十八年間の軌跡を報告しました。

特別報告では、香川同友会が取り組む「共育型インターンシップ」に関して、連携校である香川県立三木高等学校の廣林研史教諭と卒業生の中尾美都氏が報告。この取り組みは一九年に始まり、高校生が中小企業を訪問し、経営者や社員に理念や強みなどをインタビューした成果を地域住民に発表する活動です。廣林教諭からは主体性の向上や進学への影響など、生徒たちの変化について詳細に語られました。中尾氏は、地元で活躍するビジョンを描けるようになったことや、地域への愛着が高まったことなどを笑顔で話しました。最後に、次回開催地である宮城同友会にバトンが渡され閉会となりました。

(株)サンキョウ・エンビックス 岡根 誠佳

25年度方針に掲げた数値目標

■各支部例会参加率

(所属支部の例会に参加した支部会員数/支部会員数)
(2025年12月1日～12月20日までの例会)

※支部会員数は11月理事会承認の値

岡山北支部	11.6%	(20/172)
岡山南支部	-	(-/144)
倉敷支部	26.0%	(32/123)
作州支部	33.3%	(7/21)
備北支部	-	(-/48)
東備支部	39.4%	(13/33)

■企業変革支援プログラム登録者 (2025年1月1日～12月20日までの登録)

岡山北支部	3.5%	(6/172)
岡山南支部	11.8%	(17/144)
倉敷支部	14.6%	(18/123)
作州支部	9.5%	(2/21)
備北支部	14.6%	(7/48)
東備支部	9.1%	(3/33)

合計53

■経営指針書の事務局提出数

(2025年4月1日～12月20日までの提出)

岡山北支部	3.5%	(6/172)
岡山南支部	4.9%	(7/144)
倉敷支部	4.9%	(6/123)
作州支部	9.5%	(2/21)
備北支部	8.3%	(4/48)
東備支部	9.1%	(3/33)

合計28

■公開行事のオブザーバー参加人数 (2025年6月1日～12月20日までの行事)

岡山北支部	8
岡山南支部	9
倉敷支部	6
作州支部	14
備北支部	0
東備支部	8

合計45

青年経営者全国交流会分科会報告者レポート

同友会の仲間と、 社員に支えられて 迎えられた報告

(株)ファーストディレクションTAKEKICHI
代表取締役 木本 康大 氏



香川の青全交で報告をしてきました。報告は今まで何度も経験があり、それなりに組み立てができていると思っていましたが、実は報告づくりの序盤で行き詰まり、悩みました。以前の私であれば、その悩みを誰にも言うことなく、自分のできる範囲でどうにかやり過ぎていたと思います。しかし今回は自分が報告に行き詰っていることを青年部の仲間へ開示し、協力を求めることができました。その結果、自分の想像を超える内容に仕上がりと、自身の成長も実感することができました。

たくさんの方からアドバイスや応援をしていただき迎えた当日は、緊張よりも楽しさが勝っていました。本当にこの機会をいただいたこと、そして繁忙期でありながら私を送り出してくれた弊社の社員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を自社・同友会の発展に必ず活かすことで、応援して下さい皆さんへの恩返しにしたいと思っています。

広報委員会

発行人／藤井 孝章・山辺 啓三・門田 悦子
編集人／藤井 智晴

〒700-0936 岡山市北区富田29
☎(086)222-7473 FAX(086)225-3662

E-mail : info@okayama.doyu.jp
https://okayama.doyu.jp

© 1988-2026 岡山県中小企業家同友会